

# リスク管理への取組み

## ■ リスク管理の体制

金融の自由化・金融技術の革新、またお客様ニーズの高度化などから、金融機関の抱えるリスクはますます多様化するとともに複雑化してきております。

こうした環境のなかで、当金庫が今後とも地域金融機関として社会的責任と公共的な使命を遂行していくためには、経営の健全性を維持・向上させるとともに、リスクに見合った適正な収益を確保することが重要と考えています。

当金庫では、金融環境の変化に対応できるリスク管理態勢の整備・強化を最重要課題と位置づけて取り組んでおります。

## リスクの種類と管理体制

### <リスクの種類>

### <リスク管理の体制>

信用リスク	信用リスクとは、貸出等を行っている取引先の財務状況の悪化や倒産等から金融機関の資産価値が減少ないし消滅し、金融機関が損失を被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、貸出資産の健全性を維持するため、貸出審査部門と業務推進部門を分離し、相互牽制機能が働く体制を取っております。また、資産の健全性については、資産査定委員会にて厳格なチェックを行っています。
市場リスク	市場リスクとは、金利、有価証券等の価格、為替等の様々な市場リスク要素の変動により、保有する資産（オフ・バランス資産を含む）の価格が変動した場合に被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、リスク管理委員会を設置し、経済情勢、金利・為替動向などに基づいて、運用・調達の方針を策定し、金利・価格変動・為替・信用リスクの管理を行っています。
金利リスク	金利リスクとは、市場金利の変動によって保有資産の価値が減少した場合に損失を被るリスクのことであります。		
価格変動リスク	価格変動リスクとは、市場価格の変動によって保有資産の価値が減少した場合に損失を被るリスクのことであります。		
信用リスク	信用リスクとは、有価証券の発行体の格付が低下するなどの信用状態が悪化した場合に被るリスクのことであります。		
流動性リスク	流動性リスクとは、予期せぬ資金の流出等により、通常よりも著しく高い金利での調達を余儀なくされる、あるいは市場において通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされること等により損失を被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、流動性リスクにおける信金業界のバックアップ役を担っている信金中央金庫へ支払準備金を預入れることなどを通じて、流動性リスクに対する十分な管理態勢を確保しています。
オペレーショナル・リスク	オペレーショナル・リスクとは、信用・市場・流動性リスク以外の事務・システム・風評リスク等により損失を被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、監査部門や事務管理部門が各本支店に対して臨店検査や事務指導を実施しているほか、事務取扱規程・要領を整備するとともに、内部研修等により事務レベルの向上を図るなど、事故防止のために万全の態勢をとっています。
事務リスク	事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより損失を被るリスクのことであります。		
システムリスク	システムリスクとは、コンピュータ・システムのダウンまたは誤作動等システムの不備等により、あるいはコンピュータが不正に使用されることにより損失を被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、一般社団法人しんきん共同センターに加盟し、オンラインシステムの運用を委託しております。同センターは、コンピュータ・口座元帳のファイル・通信回線などの二重化および神奈川県厚木センターでの共同センターバックアップ方式の設置等、災害発生等のオンラインシステム確保にも万全を期しております。
風評リスク	風評リスクとは、悪い評判や風説等が世間に広がることにより、金融機関の信用が著しく低下し、金融機関が損失を被るリスクのことであります。	⇒	当金庫では、「風評リスク管理規程」を制定し、全ての役職員が対応できる内部体制を整備するとともに、お客様からの苦情等をチェックするなど十分な管理態勢を確保しています。